

平成28年度 第3回市長タウンミーティング概要

と き：平成28年4月17日(日)
午後2時～3時半

ところ：南公民館

参加者：82人

○市長あいさつ

(市長より、平成28年度の施策・予算についての説明が行われました。)

○意見交換

質問(男性)

先日、中央公民館が文部科学大臣から優良公民館表彰を受けたそうですが、そのことについて教えていただけますか。

回答(市長)

優良公民館表彰は、毎年、文部科学大臣が地域住民の学習活動に大きく貢献している公民館を表彰するものです。公民館は全国に約1万4700館あり、平成27年度は中央公民館を含めて77館が優良公民館に選ばれました。それだけでもうれしいことですが、今回はその77館のうち、特に優れた活動を行った5館の優秀館にも選出されました。

今回の受賞により、蕨市の公民館の表彰は5年連続となりますが、これは各地区の公民館において、市民の皆さんが充実した活動に取り組まれ、まち全体に生涯学習の輪が広がっているという結果です。たくさんの皆さんが集う生涯学習活動は、まちの発展の原動力であり、蕨が全国に誇れる魅力のひとつです。皆さんの活動に心から感謝いたします。

質問(男性)

南町2丁目の大荒田交通公園は、公園が造られてからずいぶん年数がたっていることもあり、側溝の段差や樹木の根っこの隆起など、危険な箇所が見受けられます。先日は利用する子どもがつかずいてけがをすることがありました。この公園は、自転車の練習場所として多くの子どもたちが利用していますので、安全確保のためにも整備をしていただけないでしょうか。

回答（市長）

市では、現在、限られた財源のなかで、公共施設の耐震化や橋梁・道路標識の点検・補修など、社会インフラも含めたさまざまな事業を推進しています。ご質問の大荒田交通公園に関しても、全体の優先順位を勘案しながらの対応となりますが、危険を及ぼすような箇所は早急に対策が必要だと考えています。まずは、担当課に現地を調査させ、適切に対応していきたいと思います。

質問（男性）

土地開発公社が所有する土地は、市の依頼を受けて先行取得したものだそうですが、どのような目的で購入したものでしょうか。

回答（市長）

土地開発公社とは「公有地の拡大の推進に関する法律」によって制度化され、まちづくりを進めるうえで、将来必要とされる土地を市に代わって先行取得する外郭団体のことをいいます。理事長は市長が務めることとなっており、市が債務保証人として金融機関からお金を借りて土地を取得するしくみです。現在、多くの地方自治体で制度の弊害が見られ、土地の買い戻しが進まずに塩漬け状態となるなど、全国的な課題にもなっています。

蕨市においても、購入時の使用目的が不明確であったり、当初の計画が甘かったりと、土地開発公社に土地と借金が残っているのが現状です。しかしながら、借金を返済しなければ市民の皆さんのたいせつな税金を使って利息だけを払い続けることとなり、市政運営上のたいへん大きな問題となります。

私が市長に就任してからは、新たな土地は購入しておらず、この間、区画整理事業用地として取得した土地にも関わらず、事業の見通しの立たなかった中央第一地区の区画整理を新たなまちづくりへと転換し、金融機関からの借入れにおいては入札方式による利息の軽減など、さまざまな努力を重ねてきた結果、平成18年度末に77億円以上あった借金は、28年度末に約36億円と大幅な削減を見込んでいます。今後も、皆さんの負担の軽減とともに、将来につけを残さないよう、計画的に借金の解消に向けて取り組んでいきたいと思っています。

質問（男性）

先日、改定版地震ハザードマップが配布されましたが、そのなかで感震ブレーカーが紹介されているのを見ました。大規模地震時の火災原因の半数近くが通電によるものと言われていました。普及に向けた取り組みはあるのでしょうか。

回答（市長）

改訂版地震ハザードマップは、広報蕨4月号に折り込んで全戸配布を行っています。このマップでは、東京湾北部地震を想定し、「地域の危険度」、「揺れやすさ」、「液状化」、火災が発生したときの延焼のしやすさを示した「火災危険度」の4種類を地図上に表示しており、加えて、避難場所・避難所一覧、備蓄品の確認などの情報を掲載することで、各家庭における地震への備えに役立てていただこうというものです。

ご質問にありました感震ブレーカーについても同様に、震災時に電気が原因となる火災対策に有効であることから、皆さんの「自助」の取り組みを後押しする目的で掲載をさせていただいています。現状では設置に関する補助などは行っていませんが、総合防災演習や消費生活展のなかで、事業者にご協力をいただきながら器具の展示を行うなど、普及・啓発活動に努めています。今後は自主防災会への声かけなども含めて、対応していきたいと思っております。

質問（男性）

毎年8月に実施される総合防災演習についてのお願いです。現在、参加者の多くが高齢化していることもあり、ビニールシート上での待機は、足腰に負担がかかります。椅子を設置するなどの対応をしていただけないでしょうか。

回答（市長）

ご苦勞をいただきながら総合防災演習にご参加いただいていることは私自身も承知しています。その上で、やはり、総合防災演習に求められているのは実践を想定したものであり、そのことが目的でもあります。今年の2月に塚越小学校を会場に実施した避難所運営訓練では、たいへん厳しい寒さのなか、体育館の床にブルーシートを敷き、避難所体験をしていただきました。こうした避難所の実情について理解を深めていただくことも、万への備えとして重要なことであると感じています。また、現状ではおおぜいの参加者の椅子を確保することは難しいことをご理解いただければと思います。今後はこうした声もしっかりと胸にとめて取り組んでいきたいと思っております。

※ご質問いただきました内容に関して、担当課の確認など、その場でお答えできなかった内容を、加筆・修正して公開しています。